

佐賀災害基金（令和6年能登半島地震支援）【佐賀未来創造基金】



現在の寄付金額(令和6年5月31日現在)

2,510,711 円

寄付件数

748 件

目標金額 1,000,000円

令和6年能登半島地震 支援活動レポート

引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

沢山のご寄付とご支援をいただき、ありがとうございました。

佐賀災害基金(令和6年能登半島地震支援)では、随時 能登半島支援のための助成を実施していますが、現地では、まだまだ支援が行き届いていないところもあり、今後も、継続的な支援が必要です。

引き続き、皆様からの温かいご支援のほどよろしくお願いいたします。

ご支援はこちらから

- 直接のご寄付
佐賀未来創造基金
WEBサイトへ
- Yahoo!募金
Yahoo募金からも
ご支援いただけます。



ありがとうございます

たくさんの方々から、能登半島地震支援のためのご寄付を頂戴いたしました。



認定NPO法人とす市民活動ネットワーク様

「とす市民活動センター」での募金で集まった志金のご寄付を頂戴いたしました。

(公益財団法人佐賀未来創造基金)



佐賀女子短期大学の学生ボランティア「Sun-Kissed (サンキスト)」様

募金活動で集まった志金をご寄付いただきました。

(公益財団法人佐賀未来創造基金)



(株)コミュニティ
ジャーナル様
(えびすFM)

佐賀市商工会
青年部様

(一社) 佐賀青年
会議所様

認定NPO法人
地球市民の会
及び有志の皆様



SPF 一般社団法人
佐賀災害支援プラットフォーム



公益財団法人
佐賀未来創造基金



一般社団法人 佐賀災害支援プラットフォーム
〒840-0813 佐賀市唐人二丁目5番15号 TOJIN館
TEL 070-8801-0260 E-mail : info@s-spf.com



公益財団法人 佐賀未来創造基金
〒840-0813 佐賀市唐人二丁目5番25号
TEL 0952-26-2228 E-mail : info@saga-mirai.jp

EMPRENTO

現地入りの経緯

「とんでもないことが起きた。石川に行かざるを得ない・・・」

昨年の豪雨による土砂災害のニーズ対応の為に佐賀に滞在してくれていた県外の支援団体からの電話であった。
年末年始くらいは佐賀でゆっくり出来るかなと話していた矢先に起きた能登半島地震。

発生翌日には早速現地に向かわれたメンバーと情報収集と今後の対応を協議。

「規模が規模なんで支援の手がいくらあっても足りない状況になる。佐賀からも応援をお願いできないか？」

その一言で石川行きを一同決意しました。

九州でも影響を受けると言われている「南海トラフ地震」

その時にどのような問題が発生し、どう対応したら良いのかを知っとくべきという思いもあり、また、これまで多くの方々のご助力を頂いて、災害対応が出来ていたの、少しでも力を貸して頂いた方々に報いたいという気持ちも大きかった。

いずれにせよ、今後の佐賀県の災害支援・防災のシーンでも必要な支援だという強い思いから今回の石川入りとなりました。



石川県までの経路

【空路】

福岡空港 - 小松空港 (ANA)
片道 約 45,000 円

- ・ 7:20 発 - 8:45 着
- ・ 10:55 発 - 12:20 着
- ・ 14:20 発 - 15:45 着
- ・ 17:40 発 - 19:5 着

【陸路】

自動車
佐賀大和 I.C - 金沢西 I.C
約 920 km 12 時間弱
片道 約 20,000 円

当時の石川県の状況

道路の至るところが断裂・崩落・隆起しており、普通に通行するだけでも困難な状況。

その上、奥能登では氷点下を観測することもあり、破損箇所が雪で覆われ、一見、通れるような道でも、陥没・崩落していたりと交通機能が著しく停滞していました。

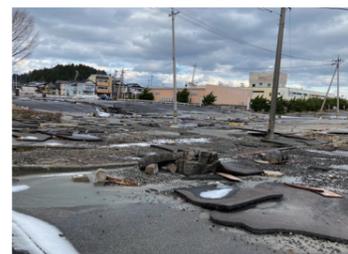
倒壊した家屋のガラス片やコンクリート片なども散乱しており、至るところで横転した車や、タイヤがバーストした車両が点在していました。

それらに伴いレンタカーは奥能登方面への移動には貸出出来ない(又は保険適用外)など、アクセスする事すら困難な状況が続いていました。

その上で、主要道路が車両で埋まり、通常、石川県庁から珠洲市まで約2時間半の所が、5時間以上かかる大渋滞。

穴水町以降はトイレも使えない状況での長時間運転はそれだけでも堪えませんでした。

また、当時は午後になると気温が低下し雪がちらつき始め、夜道は吹雪のような状態で視界が悪い中での運転となりました。



災害の概要

発生時刻 令和6年1月1日 16時10分頃

震源地 石川県能登地方(震源の深さ ごく浅い)

地震の規模 マグニチュード 7.6

県内の震度

- ・震度7: 志賀町
- ・震度6強: 七尾市、輪島市、珠洲市、穴水町、能登町
- ・震度6弱: 中能登町
- ・震度5強: 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町
- ・震度5弱: 白山市、津幡町、内灘町
- ・震度4 : 野々市市、川北町

津波の発生

- ・1日 16時12分 津波警報発表(石川県加賀、石川県能登)
- ・1日 16時22分 大津波警報に切替(石川県能登)
- ・1日 20時30分 津波警報に切替(石川県能登)
- ・2日 01時15分 津波注意報に切替(石川県加賀、石川県能登)
- ・2日 10時00分 津波注意報解除(石川県加賀、石川県能登)

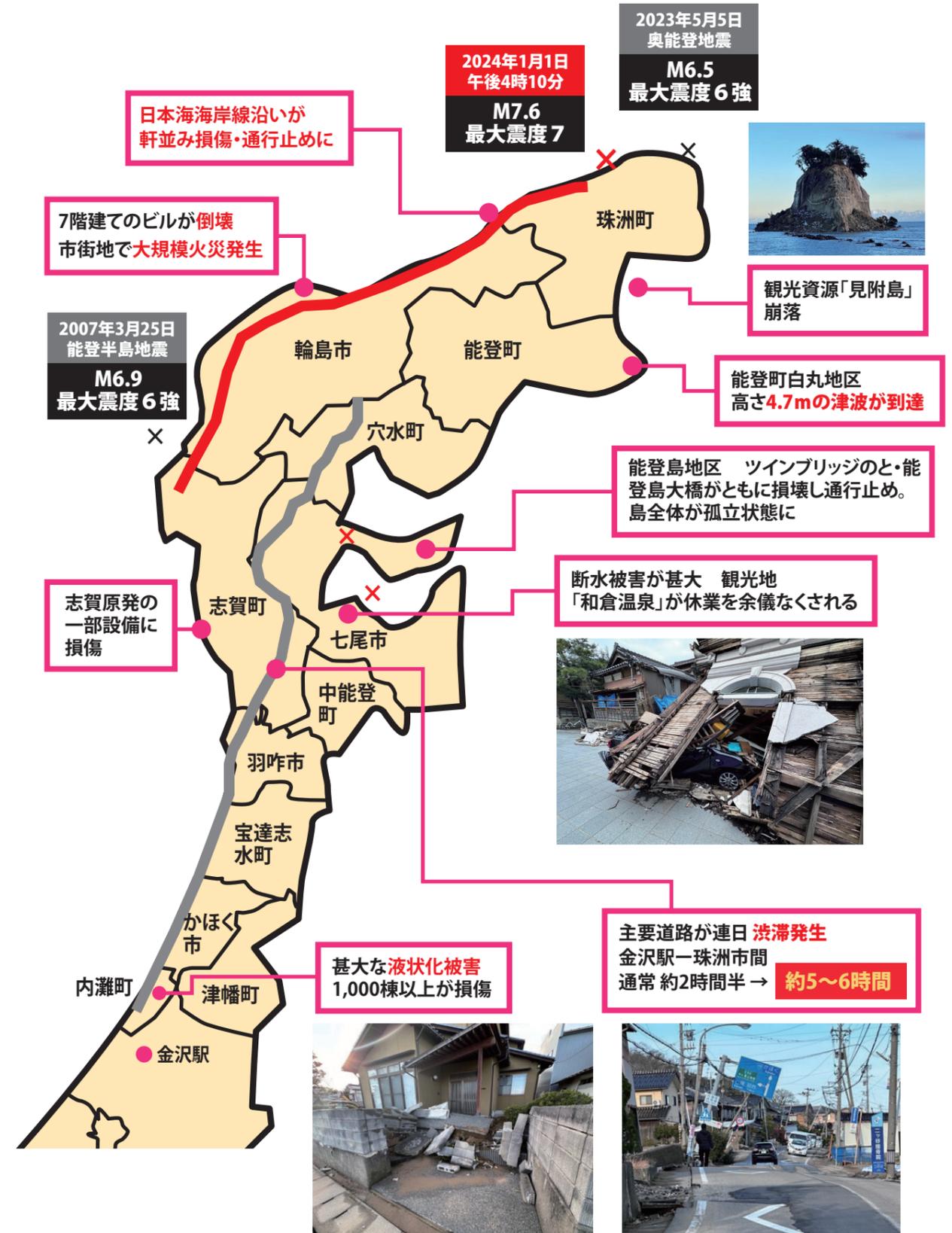
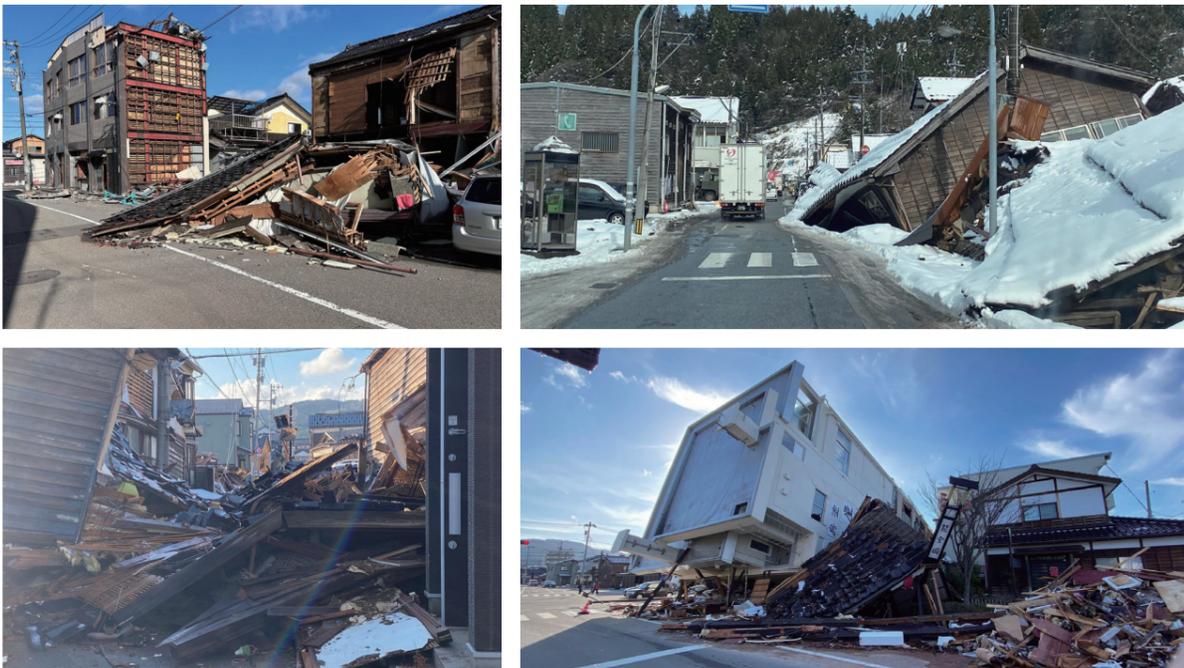
市町1次避難所

| 市町名 | 全人口 | 開設数(1月) | 避難者数(1月) |
|-------|-----------|---------|----------|
| 金沢市 | 463,254 | 2 | 33 |
| 七尾市 | 50,300 | 33 | 1,758 |
| 小松市 | 106,216 | 5 | 168 |
| 輪島市 | 24,608 | 164 | 12,012 |
| 珠洲市 | 12,929 | 67 | 5,842 |
| 加賀市 | 63,220 | 1 | 4 |
| 羽咋市 | 20,407 | 1 | 103 |
| かほく市 | 34,889 | 2 | 46 |
| 白山市 | 110,408 | 0 | 0 |
| 能美市 | 48,523 | 0 | 0 |
| 野々市市 | 57,238 | 0 | 0 |
| 川北町 | 6,135 | 0 | 0 |
| 津幡町 | 36,957 | 1 | 24 |
| 内灘町 | 26,574 | 4 | 134 |
| 志賀町 | 18,630 | 14 | 825 |
| 宝達清水町 | 12,121 | 1 | 42 |
| 中能登町 | 16,540 | 4 | 71 |
| 穴水町 | 7,890 | 42 | 2,198 |
| 能登町 | 15,687 | 63 | 2,898 |
| 計 | 1,132,526 | 404 | 26,158 |



災害の概要

| 市町名 | 人的被害(人) | | | | | 住家被害(棟) | | | | | 非住家被害(棟) | | |
|-------|---------|---------|-------|-----|-----|---------|--------|-------|-------|--------|----------|-------|-------|
| | 死者 | うち災害関連死 | 行方不明者 | 負傷者 | | 全壊 | 半壊 | 一部損壊 | 床上浸水 | 床下浸水 | 小計 | 公共建物 | その他 |
| | | | | 重傷 | 軽傷 | | | | | | | | |
| 金沢市 | | | | 9 | 9 | 4,247 | | | | 4,247 | | 1 | |
| 七尾市 | 5 | | | 3 | 8 | 12,795 | | | | 12,795 | 82 | 52 | |
| 小松市 | | | | 1 | 1 | 1 | 44 | 1,706 | | 1,751 | | | |
| 輪島市 | 103 | 3 | 確認中 | 213 | 303 | 622 | 1,997 | 1,313 | 2,656 | 5,966 | | 1,490 | |
| 珠洲市 | 102 | 6 | | 47 | 202 | 357 | 3,464 | 2,090 | 2,726 | 8,280 | | | |
| 加賀市 | | | | | | 7 | 24 | 1,285 | | 1,316 | 44 | 22 | |
| 羽咋市 | 1 | | | 7 | 8 | 2,228 | | | | 2,228 | 61 | 9 | |
| かほく市 | | | | | | 1,223 | | | | 1,223 | | 157 | |
| 白山市 | | | | 2 | 2 | | | 228 | | 228 | | | |
| 能美市 | | | | | | 1 | 9 | 876 | | 886 | 9 | | |
| 野々市市 | | | | 1 | 1 | | | 28 | | 28 | | | |
| 川北町 | | | | | | | | 12 | | 12 | | | |
| 津幡町 | | | | 1 | 1 | 1,442 | | | | 1,442 | | | |
| 内灘町 | | | | 2 | 2 | 1,463 | | | | 1,463 | | | |
| 志賀町 | 2 | | | 7 | 90 | 99 | 5,324 | | 6 | 5 | 5,335 | 21 | |
| 宝達清水町 | | | | | | 935 | | | | 935 | | 1 | |
| 中能登町 | | | | 1 | 1 | 2 | 2,506 | | | | 2,506 | | |
| 穴水町 | 20 | | | 32 | 225 | 277 | 3,225 | | | | 3,225 | | |
| 能登町 | 8 | 6 | | 10 | 25 | 49 | 5,000 | | | 3 | 947 | | |
| 計 | 241 | 15 | | 312 | 870 | 1,438 | 58,855 | | 6 | 5 | 58,866 | 199 | 2,700 |



活動内容

■ 1月1日

発災 各団体と連絡を取り合う。

■ 1月2日

旧大町町立病院官舎跡にて
・SPF:山田・新中・今井、
・OPENJAPAN:萬代氏、本多氏
・大町町地域おこし協力隊:公門氏
とで緊急対策会議。

現地の団体と状況の確認や、今後の動きなどを共有。
佐賀から現地に出発する団体の物資詰め込み作業や送り出し。

■ 1月4日

県内からの物資提供依頼の対応、受け入れ先の確保などの調整業務。
JVOADによる現地からの第1回能登半島地震情報共有会議。
支援班:今井が物資を詰め込み車にて現地へ先行出発。

■ 1月8日

物資班:野見山
調整班:新中
佐賀から空路で石川入り。三者それぞれの役割で支援活動を行う。

今井:自団体(sien sien west)として被災地支援に従事。
野見山:(公社)CivicForce臨時スタッフとして物資支援全般に従事。
新中:石川県庁にてJVOADの石川県・内閣府・支援団体等との調整補助に従事。



○物資班:野見山 1回目:1月8日~1月18日

公益社団法人Civic Forceの一員として【緊急対策期後の物資に関わる支援】を担当。

◎災害発生後72時間の人命救助や安全の確保の緊急対策期～

- ①各避難所に水や食料、衣類などを届けるため集積しておく七尾市の物流拠点(ロジハブ)の管理
- ②企業から寄付される大量の物資を実際に荷受けし避難所からのニーズに応じて荷出し

七尾市物流倉庫の様子

比較的被害の軽い七尾市内で休業していた事業所を借用し緊急物流倉庫に。
物資の荷受け、積み込み、棚卸などを担当。災害対策のため取得していた資格や免許、受講していた講習などが役に立った。

とても気温が低く寒さ対策をしながらの活動に



輪島市への物資運搬も担当

七尾市物流拠点から被害が特に甚大であった輪島市の物資集積所へ支援物資を搬入。
特別機動警察隊の皆さんと協力して荷下ろし



活動内容

○物資班:野見山 2回目:2月7日~2月14日

認定NPO法人日本レスキュー協会のサポート。【CSOと行政との連携促進】を担当。

◎災害中間支援として被災者支援を行うCSOと被災地行政との橋渡し

- ①避難所でのニーズ調査や在宅避難者の状況把握などを同行し行政との連携を支援
- ②被災地の行政とNPOと連携し避難所や在宅、食事仮設住宅などの支援調整に合流

現地での活動の様子

ペットを飼っている被災者の支援をするNPOに同行し、ニーズ調査や実際に物資を届けるなど多くの避難所を奔走。

J-VOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)の視察対応やオンライン会議運営の支援など平時からのつながりや強みを生かして支援



その後の活動と今後の展望

- ◎3月、4月、5月にも継続して現地入りしている団体とともに活動
- ◎今後も継続的に支援を実施予定



○調整班:新中 1回目:1月8日~1月18日

JVOAD(全国災害ボランティア支援団体ネットワーク)として石川県庁内にて各種会議への参加、来客対応、団体間連絡などの調整業務全般。

◎災害発生後72時間の人命救助や安全の確保の緊急対策期～

- ・災害対策本部会議 ・分野別対応会議
- ・1.5次避難所運営会議 ・奥能登支援コア会議 etc.
- ・訪問団体企業対応 ・団体、現地ヒアリング
- ・スターリンク、電子機器の手配
- ・企業支援の受け入れ対応 ・来客者管理 etc.
- ・支援企業スタッフの現地アテンド



○調整班:新中 2回目:2月22日~2月29日

約1ヶ月ぶりとなる石川入り。

道路こそヒビや隆起した箇所は砂利やアスファルトで幾分通りやすくなっていたものの、1月から何も変わっていない奥能登の町並みに、改めて今回の災害対応が難しいものなんだと感じさせられます。

前回訪問時に来客対応や会議対応でほとんど外に出れず、現場の支援団体との情報交換の必要性を感じた為、今回は共同代表の山田とともに遊撃隊として支援団体や関係機関回りを中心に活動を行う。

支援P(災害ボランティア活動支援プロジェクト会議)として、石川県社協の応援に入られている佐賀県社協の職員さん初め、佐賀に所縁のある団体を訪問しヒアリング。

どこの団体からも共通して聞こえてくる課題。

「人手がいくらあっても足りない・・・」

普段からお世話になっている皆さんに何かしら報いたい。

佐賀から何か出来ることがないか？

を模索する1週間となりました。

活動写真は次ページにて

活動内容

○調整班:新中 2回目:2月22日~2月29日



全国県社会福祉協議会
佐賀県社会福祉協議会
(石川県社協)



ほくりくみらい基金
おかやまNPOセンター
(金沢市)



sien sien west
(七尾市石崎)



NGO結
(七尾市中島)



NGO協働センター おもやい
(七尾市中島)



OPENJAPAN
(能登町)



リエラ
(能登町)



JVOAD・宮崎文化本舗
(穴水町)



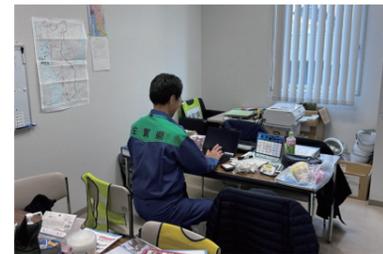
ピースポート災害支援センター
(珠洲市)



YNF
(珠洲市)



日本レスキュー協会
(石川県庁)



佐賀県対口支援チーム
(志賀町)



日本レスキュー協会
石川支援ベース(能登町)

○調整班:新中 3回目:3月6日~3月11日

日本レスキュー協会の支援サポート&佐賀支援プロジェクトの調整の為、事前に単身石川入り。

◆佐賀支援員派遣プロジェクト始動 1期:3月12日~3月15日

【派遣支援者:合計4名】

- ・株式会社名尾手すき和紙:1名
- ・江北町防災士会:1名
- ・NPO法人ソシオの杜:2名



前回、各団体訪問した際に佐賀からの受け入れを承認頂いた3団体3拠点《sien sien west,日本レスキュー協会,OPENJAPAN》に佐賀から支援者をSPF職員が道中を同行しながら、支援活動を行って頂くプロジェクト。

いずれの団体も1月初期から現地で張り付きの支援活動をされていたので、活動はもちろんですが、そこに集まる支援者同士での交流も含めて、実際に現地を「見て・触れて・感じて」もらい、それらを佐賀に持ち帰り、周囲にフィードバックして頂くことも目的として実施しました。



旅費自己負担不要 (SPFで負担致します)

現地で支援活動を継続している災害支援団体と一緒に活動して頂きます。

※現地は現在も余震が続いている地域になります。ボランティア保険(天災・地震補償プラン)もしくははえんのみ(天災対応オプション付)に加入し、自己責任で現地入り出来る方に限ります。

【対象】
①能登での支援に興味がある方
②現地で宿泊が可能な方(4日~1週間程度)
定員:4名(選考あり)



【参加者の声】

- ・サロン活動を通じて住民の方とお話することで、心の奥底にある本音部分の聞かせてもらうことが出来た。また、終わった後の住民さんがとても明るい笑顔になられたのが印象的でした。
- ・初めての災害支援でしたが支援者の皆さんが明るく楽しく活動されていたので意外だった。災害支援というもののハードルが自分の中で少し下がった様な気がした。
- ・ずっと支援に行きたいとは思っていたが、自分では行く術がなく諦めていた。今回、念願叶って現地で活動ができました。今回で得た知見を自分の地域の人達にも伝えていきたい。



活動内容

◆ 佐賀支援員派遣プロジェクト 2期:4月3日～4月10日

【派遣支援者:合計1名】 認定NPO法人地球市民の会:1名

支援員派遣プロジェクトの2回目は少人数での実施。基本的に私の行動に同行して貰う形での活動となりました。前回に引き続き、ペット支援を継続されている日本レスキュー協会のサポート業務。県がNPOに対して委託をしている「被災高齢者等把握事業」のヒアリング項目にペットの質問を追加出来ないかななどをJVOADに相談。能登町では3月いっぱい行政の対口支援の多くが撤退し、人手不足になったことから急遽、現場に入ることに。能登町宇出津地区のシニア世代のお母さん宅の家財撤去・清掃作業でした。3階建てのお家でしたが驚いたことに、傾いた家、床に散乱する大量のガラス片。そんな中で生活されていました。



作業が終わった後は、感謝の言葉とともに涙が零れ落ちていました。作業が終わった後は、PBV、F-NET、おかやまNPOセンターのメンバーと近況確認。その後に日レスさんが定期開催されている珠洲市見附島でのペット物資配布会のお手伝い。



◆ 佐賀支援員派遣プロジェクト 3期:4月22日～4月25日

【派遣支援者:合計2名】 NPO法人ソシオの社:2名

支援員派遣プロジェクトの3回目は珠洲市見附島で開催される『わんにゃん復興祭』へブース出展。普段は40名～60名ほどの参加者でしたが、今回は400名を超える大盛況。前回の訪問で繋がりが出来た「能登半島まほろば村プロジェクト」主催イベント。少しずつですが、外部支援中心から地元中心の支援に移行できる体制づくりのサポートにも携わっています。



◆ 佐賀支援員派遣プロジェクト始動 4期:4月26日～5月2日

【派遣支援者:合計3名】

- ・認定NPO法人地球市民の会:1名
- ・(株)コミュニティジャーナル(えびすFM):1名
- ・大町町常連ボランティア:1名

今回は男性チーム・女性チーム2班に分かれての活動となりました。女性チームは七尾市のsien sien westの拠点でお世話になりました。代表のお人柄からか学生ボランティアも多く受け入れられています。

全国からの支援者と食事作りなどを通して交流を深め、地域の住民さんとも「被災高齢者等把握事業」の訪問調査で現地住民の方々の生の声を聞かせて貰えたようです。またそれぞれの特色を活かし、拠点のムードメイカーや佐賀の方々に向けて現地からラジオ中継で情報発信なども実施して頂けました。また、地域の市議会議員さんが「ラジオななお」の番組を持たれており、そこへお招き頂き佐賀と七尾市のラジオ局交流も出来ました。



男性チームは能登町のOPENJAPANの拠点に。令和3年7月豪雨で水害の被害にあった大町町からのご縁で繋がった常連ボランティアさんと能登町という地で懐かしの再会を果たせました。

【参加者の声】

・実際に現地に来て感じたのが、想像以上の被害の大きさに驚かされました。訪問調査で実際に被災されて方々の貴重な声を聞いて、またラジオ放送で佐賀にも現地の情報をリアルタイムでお伝えできました。お話しをお聞きする中で特に能登のコミュニティは佐賀と似ている所があり、佐賀で自身が起きた場合、同じ様な状況に成るのではないかとこの危惧も憶えました。今回の学びを防災に特化したコミュニティラジオ局の一員として広く伝えていきたいです。

・私の中での新たな発見は、中間支援組織や民間ボランティア団体などの被災地の復旧復興を支える仕組みについてでした。今回、全国の災害支援団体を繋ぐJVOADが拠点を置く県庁へ行き、描かれていた被災地支援団体の組織図(相関図)を見たことで、地域を支えるために多くの組織が役割を持って連携し、支え合っていることを理解しました。また、訪問調査では被災者でありながらも支援者側に回っている地元のケアマネージャーの方に対しては、大変さを感じるとともに、ケアマネージャーの方にはしかできない役割の重要性を感じました。

・やはり現地に行かないとわからない、感じないものがたくさんありました。地震が発生してもう5ヶ月経ちますがまだ全然復興が進んでいないこと。このままだといつになったら能登半島が復興するのか想像ができません。長期になればなる程災害支援は減少する可能性が高くなります。全国の皆が能登半島のことを熱く思っているうちにとにかく急ぐ必要があると言いたいです。

成果と今後の展望

○石川支援での成果

1月には3名でそれぞれの役割で現地に入り、3名が違った目線で同じ災害をみれたのは大きかった様に思えます。

物資が届いていない避難所があれば、その情報を物資班に繋ぎ、用意した物資を支援班が届ける。現地で足りていない支援があれば、調整班に連絡し、それを直接、県や内閣府にJVOADを通じて届ける。という3班の連携体制で活動することが出来ました。

とはいえ、それですべてが解決できた訳でもなく、様々な課題に次々と相対する、とても対応が難しい災害であることを同時に痛感させられました。

平時からの備えが如何に有用であるかを改めて感じさせられる支援活動でした。

今回の活動で一番の成果に感じるのが、企業の方々の支援を知ることが出来た事だと思います。

石川県庁では絶えず、いろんな企業の方々が「なにか現地で支援できることはないか?」と訪問・問い合わせが殺到していました。

その都度、現地の状況や課題をお伝えさせて頂くと「こういう支援が出来る」「それなら〇〇さんが提供できるかもしれない」と色んな提案が飛び交う様子を目の当たりにして、とても心強く感じました。

その経験も、今回の「支援員派遣プロジェクト」のきっかけの一つとなりました。

想いを持った人は色んな所に存在している。ただ、それらの皆さんとまだ出会えていない事で、情報も回らず、支援まで至っていないのではないかと考えました。

○今後の展望

今回、試験的に「支援員派遣プロジェクト」を実施しましたが、有り難いことに参加頂いたほぼすべての人達が今後も継続した支援活動で一緒にできる事になりました。

今回の経験を基に、今後は支援者だけではなく、行政・社協・企業の皆さんとも活動を共に出来る環境を作り、多くの方々との出会いを大切にして、「支援」と支えあえるご縁の「支縁」を一人でも多くの方々と紡いでいける様な活動を継続していこうと思います。